（別紙様式１）

令和６年度　学校評価自己評価報告

学校名〔　京丹後市立大宮第一小学校　〕

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
「学校教育目標」(長期目標） ◆自他を尊重し、自ら学ぶ　子どもの育成 **「目指す学校像」** ◇一人一人が輝き、生き生き活動する学校【児童】 ◇やりがいを持って自分の力を発揮する学校【教職員】 ◇安心して子どもを任せられる学校【保護者】 ◇他の地域に誇れる地域とともにある学校【地域の方】	○ICT の活用がさらに進み、まとめたり表現したりする学習での活用ができてきている。 ○特別活動の異年齢活動等も活用し、協調性・自制心・やり抜く力などが身に付いてきている。また、日々の学級経営の中で多様性を認め、居場所のある学校づくりに向けて組織的に取り組んでおり、「安心して学習ができる」「学校が楽しい」「自分には良いところがある」の項目では多くの児童が肯定的評価をしている。 △今年度の DRT の結果では、特に国語において厳しい結果が見られた。学力差の課題を解決する視点からも、学習の見通しをもったり学習したことを振り返ったりする等、児童が主体的に学習に取り組む自己調整学習を積極的に取り入れる必要がある。 △日々の授業ともつなぎ個別最適な学びの実現を目指した家庭学習の取組を工夫する必要がある。	「一人ひとりが自分の良さを発揮し、将来の自立に向けてつながりながら力を高めることができるような学校経営を行う」 ・子どもたちをつなぎ、「心理的安全性」のある学級を目指す。その学級経営の基礎の上に主体的に学習に取り組む。自己調整学習を積極的に進め、一人ひとりの学びを自己調整する力を最大限高める。 ・保護者との丁寧な連携を進め、将来の自立の観点で、児童へのかかわり方について信頼と理解を得ていく。 ・特別活動の研究によりつけてきた力を、さらに積み上げるともに、思いやりやつながりのある人間関係の構築を図る。 **教職員のキーワード** 『互いを認め合い　多様な人とつながり　未来を創造する児童の育成』　―自分が変わり　子どもを変える―

評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題（自己評価）
学校教育指導の重点、保幼小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として 教育課程・学習指導	1　ICT を効果的に活用し、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を進める。 2　総合的な学習の時間では、「丹後学」の内容も含め、児童が主体的に課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現の学習に取り組み、探究的な学習となるよう充実を図る。 3　教科の指導と生徒指導を一体化させた授業づくりを進める。その際は、「大宮学園授業づくりの視点９」の活用を図る。	・学習指導部、研究推進委員会を中心に、校内研修会の内容・方法を工夫し、時間を効果的に活用し、授業改善を積極的に進める。（学年会、ミニ研修会、全体研修会等）授業はもちろん、タブレットの持ち帰り学習と授業を連動させながら、自ら学びを調整する力の育成を目指す。 ・児童が、主体的に課題設定できるよう見学・体験・出前授業等を仕組み、そこから生まれた課題を解決するために情報の整理・分析・まとめなどの学習をスパイラルに進める。様々な人や地域とのつながりを通して、住んでいる地域への関心を高めたり、良さに気づいたりするなど、将来の夢や希望が広がる機会としても大切に取り組んでいく。 ・お互いの良さを大切にしながら、違いを認め合い、失敗したりうまく行かないことがあったりしても粘り強く取り組む力を育成する。指導のねらいを明確にした授業により、発達段階に応じて、意図的・計画的に指導を進め、教科における見方・考え方を確実に身に付ける。教科指導と生徒指導を一体化した授業づくりを「大宮学園授業づくりの視点９」を活用しながら進める。	○今年度の総合学力調査の結果では、学級平均では、特に国語において厳しい結果が見られた。しかし、６年生では、全国学力調査結果の課題を、一人ひとりが主体的に学べるよう工夫した授業（自由進度学習等）により、学級として平均を上回る結果へと引き上げることができた。 ○学活の話合い活動の研究を生かし、どの学級でもあらゆる授業の中でペアやグループによる小集団での話合いや学級全体の学び合いを大切に進めている。その結果、多くの学級で主体的、対話的な学習が進んできている。 ○ICT を活用した学習がさらに進み、考えをまとめたり、表現したりする学習での効果が見られる。 ○特別活動の異年齢活動等も活用し、協調性・自制心・やり抜く力などが身に付いてきていると感じる。また、日々の学級経営の中で肯定的な評価を大切に心理的安全性のある学級作りが進められている。 ○多様性を認め、居場所のある学校づくりに向けて、組織的に取り組み、「安心して学習ができる」の項目では 91%以上の児童が肯定的評価をしている。

学校教育指導の重点、保幼小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として	生徒指導	1　丁寧なアセスメントと個に応じた支援による不登校の未然防止に努める。 2　いじめ等の未然防止のための積極的な生徒指導の充実に努める。	・全ての児童にとって居場所があると感じる魅力的な学校・学級づくりを進めるとともに、発達上の特性が不登校の要因となり得ることを踏まえ、専門家の意見を踏まえたアセスメントのもと、有効な支援方法を全教職員で共有し、一致した指導・支援を行う。 ・子どもの変化や小さなサインを見逃すことのないよう、日々の観察をし、何でも話せる信頼関係を築き、いじめ等の未然防止に努める。見えないところで起こっている場合があることを意識して、アンケートの実施はもちろん、地域・保護者とも連携していじめを見逃さない体制の構築を図る。	○学級活動や児童会活動、学校行事、人権教育の取組などを通して、集団での学び合いや支え合いができる学級が増えてきた。児童アンケートの「学校が楽しい」では、91%以上の児童が肯定的評価をしている。 ○不登校傾向の児童への対応として、常に居場所の確保に努め、また保護者とともに歩むことを大切にすることができた。その結果、少しずつ前向きに成長する児童が増え、長期欠席にはつながっていない。 ○いじめ等の生徒指導事象についても、トラブルはたくさんあるものの、確実な事実確認と保護者連携を通して、解決することができている。 ○児童アンケートで、自分には良いところがあると答えた児童がさらに増え約 89%となった。
	健康（体育）・安全	1　全校的な体力にかかわる課題改善に向け、取組の充実と積極的な児童への指導、保護者への啓発により、心身ともに健康な体つくりに取り組む。	・体育の授業と連動し、期間を決め、集中的に朝マラソンや縄跳び等の取組を行ったり、計画的でタイムリーな児童への指導、保護者への啓発を進めたりすることで、体力（特に持久力）向上と休まず学校に来ようとする耐力（意欲）を高める。 ・休み時間の積極的な異年齢遊びを通して、安全に楽しく誰とでも遊べる経験を増やす。	○普段の体育の授業やマラソン大会の取組、縄跳びの取組等体力づくりを全校的に進めることができた。 ○保護者との丁寧な連携を図り、子ども同士のつながりを大切にして居場所を創ることでどの子も学校に来ようとする気持ちを持ち、登校できている。 △コロナ禍での教育活動により落ち込んだ体力的な面の課題は、まだ改善には至っていない。けがも多い。
	(A)特色ある学校づくり	1　これまでの特別活動の研究実践の成果をさらに積み上げ、誰もができる将来の社会的自立を目指した教育活動の在り方について、実践を重ねる。	・学級活動や児童会活動等の授業や活動の考え方や指導の在り方について理論研究を進める。また、すべての教育活動の基盤として安心して学べる学級となる人間関係づくりを進める。 ・児童の姿を通して特別活動の取組の成果を共有し、さらに、発達段階に応じた役割分担や自己決定の場を通して達成感や満足感を高める。	○学級活動の研究や実践から、児童が主体的に自他を尊重して話合い活動を進めることができ、温かな人間関係づくりの文化が根付いてきている。 ○大宮学園の授業研究会では、伸び伸びと自分の意見を伝え、友達の意見を聞き、子どもが主体となって話合いを進める授業から、研究協議が深まった。
	(B)情報活用能力（ICT 活用）	1　電子黒板や一人１台のタブレットを活用した、授業改善を進める。 2　情報モラルについては、 実際に使用しながら細やかに実態を把握し、課題についてはその都度よりよく使うためのルールを考えさせながら身につける。	・具体的にどのような教科や単元、場面等で活用しているか実践交流を行い、さらに使用範囲を広げながら効果的な活用を目指していく。学園の取組の中でも、オンラインでの交流を行うなど、活用を図る。 ・「個別最適な学び」の実現を意識しながら、少しずつ家庭学習におけるタブレットの活用を進める。それと同時に、情報モラルにおける指導を低学年から発達段階に応じて行い、児童が適切に ICT を活用して情報社会を安心・安全に生き抜くための能力や態度を育成する。	○全学年で、どのようなことに ICT が活用できるのかを実践研究することができ、児童の活用スキルも高まった。 ○学園での情報モラル研修会を行い、児童生徒だけでなく、保護者や教職員も最新のトラブル等について知り、正しく使う視点での指導に活かすことができた。 ○タブレットの持ち帰りを進め、オンラインによる家庭学習にも段階的に取り組むことができた。

次年度に向けた改善の方向性	※　一人一人の可能性を最大限引き出す教育を進めるため、学習の見通しをもったり学習したことを振り返ったりする等、児童が主体的に学習に取り組む（学びの自己調整）力を高める指導を進める。さらに、タブレットを活用して、日々の学習ともつなぎ個別最適な学びの実現を目指した家庭学習の取組を工夫する。 ※　全ての子どもにとって心理的安全性のある学級、学校の実現を目指し、居場所のある環境で力を発揮できるように取り組む。 ※本校の落ち着いた雰囲気の基礎に、特別活動で育ってきた異年齢のつながりや相手を思いやる気持ちなどがある。今後も、「誰もができる特別活動」の実践を地道にすべての学級で進める。 ※　今後も保護者地域との連携を大事にし、地域を知り、地域の良さを生かした探求的な学びを進め、課題解決学習により子どもに力をつけていく